令和３年度　武蔵野市シニア支え合いポイント制度推進協議会　議事要録

■日　時　：　令和４年３月 29 日（火）　午前 10 時～午前 11 時 30 分

■場　所　：　武蔵野市役所　西棟８階　812 会議室

■出席者　：　渡邉 大輔（会長）、酒井 陽子（会長職務代理者）、田辺 安輝子、
小美濃 妙子、矢島 和美、村田 学、大久保 実　（敬称略）

■欠席者　：　青木 如男　（敬称略）

１　開　会（略）

配布資料確認（略）

２　委員及び事務局自己紹介（略）

３　議事

（１）当協議会目的及びスケジュールについて

事務局より資料２、３及び４について説明があった。

（２）令和３年度事業実績報告

事務局より資料５、７について説明があった。

【委員】　サポーター交流会について、展示のところは一般の方も見られたらいいかと思うがどうか。

【事務局】　今回は初の試みということもあり、募集は既存のサポーターのみとした。武蔵野プレイスは市民の方が自由に出入りできるので、交流会会場をのぞいていた方もいたが、コロナの状況もあり、人数が多くなり過ぎず開催ができる事前予約制で実施した。今後活動が続けば、新規の方にもご参加いただける場にしていきたいと考えている。

【会長】　交流会のパネルを今後再活用する、例えば市役所に定期で３枚ずつ置いておければ、それだけでも変わるかもしれない。そういったことはできるのか。

【事務局】　今ご提案いただいたとおり、いろいろと作品作りをして、その成果をどのような形で見せるかといったところも重要なポイントであると思う。また、その成果物を各施設に置いて皆さまに認識してもらうのも一つであり、市役所のロビー等に置いて市民

の皆さまの目に広く触れるような機会をつくっていければと考えるので、来年度以降の課題としたいと思う。

【会長職務代理者】　　このシニア支え合いポイント制度を始めたころ、手帳が使いづらいということと、ボランティア同士の交流がないということが課題としてあった。それを今回形にできたのは非常に良かったと思う。

コロナ禍のため、今は日常とは若干違う状況ではあるが、参加した方がボランティアをすることで、自分の日々の生活が改善されたということと、交流ができたということがあった。ボランティア活動と、プラスしてサポーター同士の交流、この二つをセットにして、この制度の目標である高齢の方の健康促進をすることの両方を実施していくのは、事務局としてはなかなか大変であろうと思う。今後はどのようにするのか。

もう一点、今後はインターネットを使うことがなくなることは恐らくないと思う。今までの対面の形、プラス、オンラインでの活動と、その両方ができることによってシニア支え合いポイント制度の目的も達成していけると感じる。ただそうすると、スマホを使えるかどうかという個人の環境とスキルの問題がある。また、オンラインの場合は金銭的負担もある。環境整備の部分は、それぞれの施設で、個人も含めてどのような状況になっているのか。

【会長】　　一点目はボランティアの促進と健康のこと、この両立をどう支援するか。二点目はネット活用について。ここは大きな論点になると思うが事務局はどうか。

【事務局】　　一点目について、この制度は高齢者の介護予防及び健康寿命の延伸という大きな目標を掲げている。その目標については、施設のご利用者様を含めて、サポーターご本人の方についても当てはまると考えている。また、この制度をつくった一つの大きな利用として、社会参加をしていただくことで、健康寿命の延伸につながるのではないか、ということもある。そういった意味では、両方追いかけるではないが、車の両輪のような形で、サポーターご自身の健康寿命の延伸、それをもってまた地域福祉活動が活発になっていく。さらに、まちぐるみの支え合いという大きな目的も、同時に果たしていける可能性がある制度ではないかと考える。

【会長】　　まず目的について、もともとこの制度は武蔵野市の中で、まちぐるみの支え合いをどう推進していくのか、というところがとても大きくある。もう一つは、社会参加をすることによって、人々は外に出る。もちろん仕事や居場所があれば外に出るが、そうではないときに外に出たり、あるいは他者と交流する。こういうことはとても重要である。

でも、年をとったときに、ただ友達をつくりましょうと言われても難しい。友達をつくりましょうではなく、困っている人がいるから助けませんかくらいのほうが、実は人は動きやすくなったりする。「助けてください」と言うのは大変だが、困っている時に助けましょうは意外にやりやすい。そういうことを通して、フレイルや介護の予防につなげていく。それがひいてはまちぐるみの支え合いだし、介護予防にもなる。やや高度な目標を掲げている制度だということがポイントだと思う。

コロナ禍という人との接触が難しい中で、これまでボランティア活動をやってきた方々もやらなくなったら、もういいかと思ってしまう。このようにモチベーションが下がった方々が、次にもう一度戻るときにどうするか、知恵を出していかないといけない。健康促進を言いすぎてしまうと、自分のため、となってしまいやりづらい。特にボランティアに関心がある方は、そもそも自分は誰かのために何かできることがあると思って参加していることが多い。その人には、あなたの健康のためですよというメッセージを強く言うよりも、まだできることはありますよと背中を押すことが大事であると感じる。

オンライン活動については、他の区市町村でもこの制度を導入していて、個人でのインターネット活用を促進する、何かを提供するといった活動も対象としているとのこと。このインターネットの活用については、先ほど委員からも発言があったように、できない人をどう支えるか。これがとても大事で、むしろこの部分をボランティアの方が活用できる可能性は十二分にある。そういったことを考えると、発信をする側の施設も、お金も人材もかかる。そこをどう支援するかという問題もあるが、その支援そのものをボランティア化してもいいと思う。このあたりも含めて、制度の活動の幅を広げてできると良いと思う。そのことを考えさせられるとても貴重な意見である。

現場の受け入れ施設側としての苦労も含めて、今年度新しく取り組んだこと、あるいは取り組んだがゆえにわかってきた課題があれば共有いただきたい。

【委員】　施設では最近、手芸活動を再開した。会長の質問とはずれてしまうかもしれないが、ボランティアを受け入れるときにワクチン接種しているかどうかの確認をしたほうがいいのかどうか。する施設もあれば、しない施設もある。ただ、プライバシーの問題にもなるし、デリケートな問題なのでどうなんだろうか。施設では、しているかしていないか、ではなく雑談のようにやわらかく接種状況を伺って、受け入れをさせていただいている。ワクチンを接種していなければ受け入れない体制ではないが、できるだけ接種していただければありがたいと考えている。

一方で入居者の中には、宗教的な理由や、その方の考えでワクチン接種をしていない方がいるので、ボランティアの方に強制はできないのが現状である。今、施設としてはワクチン接種していなくても、感染予防を徹底してもらえれば、ラウンジに集まっていただいて、そこで距離をとりながら活動している。

【会長】　ワクチン接種は非常にセンシティブな問題だと思う。念のための確認となるが、事務局としてワクチン接種を要件にすることはあるか。

【事務局】　要件とはしていない。

【会長】　ワクチン接種を必ずしも要件にできないというときの、先ほどの委員の施設の実践はすばらしい。どう対応していくのか知恵を出し合い、感染予防の徹底だけはお願いします、という形の言い方にするなど、いろいろな方法ができると思う。貴重なご意見をありがとうございます。

【委員】　私たちの施設では、受け入れできる範囲がこの１年で広がってきたと実感しているので、もっと他にやっていたただけるボランティア活動があるのではないかと感じている。

ワクチン接種に関しては、居住スペースにはボランティアの方が入らないよう制限しており、入居者と直に接する機会がないので、特に聞かずに受け入れている。

ボランティアの方には、コロナが終わるときには何歳になっているのだろう、もう復帰は無理じゃないか、永久に続くのではないか、と思う方もいる。復帰を諦めている方もいるので、ボランティアコーディネーターが、メールとブログの更新、ネットが苦手な方向けにお便りを出したり電話をかけたりして、とにかくつながっていてもらおうという取り組みをしている。熱心な方はブログや広報誌を見てくれている。また施設では５年ごとに表彰をしているので、あと１年間、と励みにしてもらえるのではないかと思い取り組んでいる。

【会長職務代理者】　障害者施設での話にはなるが、やはりワクチン接種の有無を聞くこと、接種を強く勧めることは難しい。私たちのところでは、基準を満たしたマスクを着用することでボランティア活動をしていただいている。ボランティアの方のマスクは効果があるものなのか、正しく装着できているのかわからないこと、自分が感染させることも、してしまうこともあると説明した上で、二重になってもかまわないので、お渡ししたマスクを装着してもらうようお願いしている。マスクを渡すには少々お金がかかるが、良い方法であると思う。

【会長】　　ワクチンの問題も、マスクをちゃんと着用していただくことも、とても大事である。手作りのマスクだと少し気になる、というときに気軽に渡すことができる環境をどう作るかが重要だと思う。

また、先ほど委員からの発言にもあったように、ネットやメール、手紙、電話といったかたちで、つながっていてもらうことの重要さがある。

私がイギリスで非常に感動したのは、ほぼ寝たきりの 90 歳くらいの末期がんの方が、家から電話で見守りのボランティアをする。それができるから、「私はボランティアである」と言うことができて、すばらしいと思った。もちろんベストはネットを使いこなして Zoom など色々なことをすることだが、電話だけだったらできるという方は多いので、つながっていてもらうということを重要なコンセプトにしながら、どうやれるかを考えていければと思う。

そのほか、私から２点質問させていただく。

一点目は、ブログの投稿やオンラインヨガなどが可能になっているが、当然ながらポイント手帳にスタンプを押してもらうことがすぐにはできない。オンラインの活動をしておきながら都度スタンプをもらいに行くのは非効率なので、ある程度であればまとめて押すことも可能という運用がなされているのか。

二点目は、インフォーマルサポートを計画に入れる、自立支援を強化する、介護保険の卒業も見越した支援等をしてくださいという意見があった。ただ、介護支援を卒業するということはケアを入れることが難しくなるので、介護を卒業する前くらいに、インフォーマルな支援としてこの制度を案内するのはどうか。そういった方々向けの説明会を検討しても良いかと思うが、この辺りは可能なのか。

【ボランティアセンター武蔵野】　　一点目のスタンプの件については、施設で手帳を預かって、活動をしたらその都度コーディネーターが押している施設もある。そして、交換の時期が近付いたらサポーターに手帳を取りにきてもらったり、コーディネーターがまとめてボランティアセンター武蔵野に手帳を届けてくれたりと、柔軟に対応いただいている。また、手帳に押さないと認めないということではないので、メモ帳にスタンプを押して、改めて手帳にスタンプを押し直すといった対応など、施設ごと、団体ごとに柔軟に対応いただいている状況である。

【事務局】　　二点目について、この制度の対象は 65 歳以上に到達する市民の方となっており、要介護度は全く関係ない。様々な状態の方がいると思うが、先ほどの末期がんの

方のお話もあるように、その方のできるボランティア活動を推進していきたい。その中でどのように制度をアピールしていくのかが一つの大きなポイントになると思う。現在行っている案内としては、１号保険者になった方に対しての通知、また市報やホームページへの説明会の案内掲載がある。

また、その方にどのようなボランティアができるのかは、例えばケアマネージャーや施設の方が良くご存じだと思うので、興味がありそうな方がいれば少しプッシュをしていただきたい。そして、そこに対して運営側がいかにわかりやすい資料や、ホームページを作っていくかが課題となる。ホームページに関しては、何ポイントたまったらどうなるかなど、具体的な案内になるように早速修正したところである。

【会長】　この活動は介護予防を目的としていることもあるので、介護予防のケアマネジメントに組み入れたり、自立支援の一つの選択肢として考えてもらうこともできる。武蔵野市は様々な事業をおこなっているので、その方にあったものをうまく使っていくと良いということを、ぜひ皆さまで共有いただければと思う。

【委員】　会長からもあったとおり、施設だとその施設内の事業に対してポイントがつくが、地域社協の場合は防災訓練や体操会などの屋外での活動が多い。屋外で活動したときはスタンプ押せないので、手帳に日付と項目を書いておいてもらい、後からスタンプを押すという方法をとっている。その対応をシステムに導入してもらえればやりやすい。

広報については、導入当初は各地域社協に来て説明会を開いてもらったが、今は日時が指定されてしまっている。集まりを開いている団体はたくさんあると思うので、５分、10分でも出張して PR をしてもらうなど工夫したらどうか。シルバー人材センター、老人会、地域社協に集まる方は自主的に地域貢献したいという方。何か役に立ちたい、仲間をつくりたい、楽しくおしゃべりしたい方たちが集まるので、そういう方たちにもう少し積極的に PR しても良いと思う。

地域社協でこの制度が広がらない理由の一つは、純粋に地域に何かお手伝いがしたいと思って来ているから、見返りを期待してわけではないということ。そこがもう少し魅力的になれば、活動をやりたい方たちはいくらでもいるので、工夫できたら良い。

【会長】　日付と項目とメモの運用の仕方について、先ほどは施設型の場合だったので、地域社協の場合はどうなるか確認ください。また、広報の出張説明会についても確認ください。

【ボランティアセンター武蔵野】　地域社協では現在運用いただいている方法でお願い

したい。また、加えて、窓口になっている地域社協からボランティアセンター武蔵野に連絡をもらえれば、該当の方が交換に来た時にスタンプを押す対応も可能。必ずしも活動のときに押さなくても、ポイントは制限するものではない。たくさんためてもらった方が次の活動にもつながると思うので、連携を取りながら対応したいと思う。

【委員】　　最初は、手帳を忘れたらスタンプを押しませんという厳しい条件があった。それは厳しすぎるので、忘れたら書いておいてもらえれば、次のときに押すという対応にしたら、一番やりやすく、定着している。

【ボランティアセンター武蔵野】　　団体、施設で様々なやり方があるので、こちらではあまり制限しない。サポーターの方にどんどんためていただけると良いと思う。

【事務局】　　現在、ボランティア活動が大変厳しい時期ではあるが、新たな活動団体を拡充していきたいと考えている。その中でも、地域社協、いきいきサロン、テンミリオンハウス等々の施設が考えられるので、そのあたりは個別にお話しさせていただいている。

令和３年７月から関前福祉の会が新規協力団体となった。地域社協としても事業がほぼできていない状況だが、コロナが収束したときに、より多くの人に福祉の会を知ってもらうことを目的に導入した。また、担い手不足という課題を感じているので、新たな層が参加する機会や動機付けにもなるのではないかと考えているとのこと。こういった話を含めて、また地域社協の集まりにも話を広めてまいりたいと思う。

出張の説明会については、一定の人数が集まれば今までもこちらから出向いているところである。個別に話を聞きたいと連絡をもらっている施設もあるので、幅広にご案内していきたいと思う。

【会長】　　特に出張の場合は、10 人集めるとなるとハードルが上がるが、５人くらいでもやっている、実はハードルは低いということも情報共有いただけると良い。

先ほどの委員からのご意見の最後の部分、私がこの事業を非常に興味深いと思ったのは、ボランティアなのにポイントは本当にいるのかということ。この事業を推進する中で非常に大きいと思っているのは、ためたポイントで寄付もできること。さらにこの寄付がどう使われているかを見える化したり、成果を残せると良いと思う。寄付でベンチをつくる、でも何でも良いが、自分たちがやったボランティアが単に誰かを支えただけではなく、さらに別の人も支えているという感覚を持てると、もう少し理解が深まり、皆さんが動けば動くほど元気になっていく。ただし、ポイントは自分のために使っても良い。例えば、図書カードを使って自己研鑽を積む、子どものために何か買う、それは全然かまわないと思

う。それぞれの考え方の中でプロモーションできればと思う。

（３）令和４年度事業計画

事務局より資料６について説明があった。

【会長職務代理者】　むさしの FM での広報は、サポーターが話すことも含まれるのか。

【事務局】　現在は、事務局のみでサポーターは出演していない。制度全体の説明をする必要があるため、サポーターのみの出演は難しいと考える。

【会長職務代理者】　議論を通して、どのような形であれ、社会とつながっている、自分の活動が役に立っていると実感することが非常に重要だと強く感じた。例えば、職員とサポーターが両方出演すれば、市の事業に市民がきちんと参加して、共有して活動しているのが見える。もちろん PR も必要だが、軽い質問でも声だけでも、知っている方が出ると周りのモチベーションも上がっていくと思う。

会長からご意見があったように、目標としては 65 歳以上の高齢者の健康ということがあるが、寄付することで自分の活動がさらに広がっていく。自分がボランティアに参加し、寄付をすることで、困っている方に二重の応援ができる。それをもう少し理解していただきやすいように、強調する広報があると良いと感じた。

【事務局】　FM についてはコロナ禍で、今は電話出演のみで出演は１名しかいない状況のため、一緒に出演できるかどうかはむさしの FM との調整が必要。ただ、事務局のみとなった場合でも、事前にインタビューしたお話をすることは可能だと思う。今後検討していきたい。

【会長】　交流会で作成したパネルも再活用したり、人々の目につきやすいところに貼ったりすれば、こんな活動もあるのかと思ってもらえる。何かしたいという思いを持っていても、何ができるか考えられない方もいる。そのときに、こんなのがありますよと見せることで、パネルなどがスタートラインになる。この制度だけではなく、武蔵野市はいろいろなことをやっていると積極的に、また包括的に広報をしていただきたい。

【会長職務代理者】　コミセンでパネル展示は可能か。

【委員】　誰が主催して、責任をもって運営するかがはっきりしていれば可能だと思う。コミセンの協議会で周知して、制度の紹介するコーナーを１日や１週間借りたいという交渉はできると思う。

【会長職務代理者】　コミセンには該当する 65 歳以上だけではなく、子育て世代や大

学生もいるので、自分の祖父母や親に口コミで広げられる可能性もあると思った。

【委員】　　１階ロビーに２～３枚パネルを展示し、チラシをセットで置いておけば、興味がある方はチラシを持っていけると思う。

【会長職務代理者】　　そのときに、65 歳以上であれば要支援の方でも参加できますということや、自分のやったことがさらにほかの困っている方への寄付にもできるということが書いてあれば、自分のためではなく人のためと思える。

【委員】　　そこの動機付けが一番大事だと思う。

【会長】　　とても大事な議論である。自分だけで行くのではなく、誰かを誘ったり、親世代の方へ教えてくださいと書くだけでも変わってくる。いろいろな形でいろいろなことをやっているということを知ることが大事だと思う。

４　その他

【事務局】　　来年度については、別途お知らせをする。

５　閉会